



「LA VITA 自由ヶ丘」

運河があり、可愛い橋が架かり、運河にはゴンドラが浮かび、その小さな空間を囲んで建つ建物の佇まいはとて“日本”の景色ではない。それもそのはず、ここは“自由が丘のベネチア”と言われている「LA VITA」というミニ店舗街だった。自由が丘駅近くにある老舗洋菓子店で“モンブラン”を生み出した、その名も「モンブラン」という店が20年ほど前に開発した商業エリアだ。



「自由ヶ丘熊野神社」

かつて谷畑といわれた自由が丘、緑が丘一帯の氏神様であった熊野神社、地元では「谷畑の権現さま」と詠んで親しんできた。その昔、那智熊野神社（現在の和歌山県）を極楽浄土にみたてた熊野参りが盛んだったが、江戸時代に谷畑の村人が、本宮の分霊をいただいて帰り、祀ったのが始まりという。毎秋、神楽坂で催される目黒ばやしは百数十年の歴史を誇る。（境内掲示より）



「トレインチ自由ヶ丘」

自由が丘駅に隣接していた大井町線車両基地の跡地に、東急電鉄グループの手で建設された商業施設で、施設名称トレインチ（トレインのお家）の由来になっている。敷地面積は2,004㎡で、ここに地上2階建ての施設が建設され、雑貨、ファッション、カフェなど13店舗が入る。2006年10月26日にオープンした。廃レールや枕木が店外の装飾に活用されている。ベーカリー「ブーランジェリー浅野屋」はいつも賑わっている。



「九品仏浄真寺」

秀吉の小田原征伐で敗れた北条氏の家臣・吉良氏の奥沢城のあった地を当地の名主七左衛門が寺地として貰い受け、珂碩（かせき）によって1678年に開かれた浄土宗の寺。広い境内の本堂向かいに3つの阿弥陀堂、上品、中品、下品に各3体の阿弥陀如来像が安置され極楽往生の9つの階層を表し、九品と言う。ここから浄真寺が通称「九品仏」と呼ばれている。奥沢城に住んだ常盤姫が愛したと言われる境内のサギ草は夏から秋に見頃を迎える。姫に纏わる「サギ草伝説」は世田谷の地で語り継がれ区の花でもある。

駒沢公園から自由が丘を經由してサギ草伝説の九品仏浄真寺へ！

